

はちおうじ物語 其の九

祈りのお山 高尾山の魅力

高尾山はなぜ
世界中の人々を
惹きつけるのか？

多くの市民に親しまれている高尾山。いにしえから信仰の山であり、現在、国内外問わず多くの登山客も訪れているこの山の魅力とは、どのようなものなのでしょうか。

修験道の歴史や天狗の伝説が残る高尾山薬王院

高尾山はいにしえより霊山として崇められ、戦勝の守護神の山として戦国武将に尊ばれ、そして庶民の信仰を集めてきた信仰の山です。北条氏や徳川幕府、そして、近現代には帝室御料林や国定公園として、山内の自然保護や植林が進められました。江戸時代から現在まで、人々が諸願成就の返礼として行う杉苗奉納が続き、今なお多くの人の手により豊かな自然が守られています。

一方で、標高599メートルと低山ゆえの登りやすさから、ハイキングなどで楽しめる行楽地へと発展してきました。幕末には、横浜から浜街道(絹の道)を通してやってきた外国人も登山をしています。近代に入ると、多摩陵の造営を機に全国から多くの人々が訪れ、観光地としてにぎわいました。

そして現在、高尾山の登山客数は年間300万人に上り、世界一といわれています。これほど都心に近い場所にありながら、豊かな自然環境が守られ、悠久の歴史の中で育まれた自然と信仰が多様な魅力を生み出し、高尾山は人々を惹きつけ続けているのです。

高尾山頂から望む富士山

杉苗奉納の石碑

守られてきた歴史

天平16年(744年)に開山したといわれる高尾山薬王院は、「殺生禁断」を第一義に、寺法でむやみに草木を切り、山を荒らすことを厳しく戒めてきました。戦国の世に入ると、八王子城を築城した北条氏照が、戦略上重要な場所であった高尾山の竹林伐採を禁止する制札を発給し、江戸時代には、徳川幕府が財政確保のため高尾山の森林を保護しました。高尾山は、薬王院や戦国武将から徳川幕府まで時の為政者たちの保護により、長い間豊かな自然が守られてきました。



高尾山薬王院本堂



薬王院の参道に連なる杉苗奉納板

信仰の広まり

近世には、周辺の村々に住む人々は、火伏せや無病息災などを高尾山薬王院に祈願しました。また、薬王院が養蚕農家に蚕を鼠から守る札を頒布したことから、薬王院は埼玉県や群馬県などの養蚕農家からも信仰を集めるようになりました。また、庶民の間で富士講が盛んとなり、その道中、低山である高尾山へ「高尾参り」に訪れ、関東一円から100を超える講中が集まったといえます。諸願成就のお礼として行う杉苗奉納は、高尾山信仰の特色の一つです。



高尾山は「修験道のお山」としても知られており、修行者は野に臥し山に臥しながら修行することから「山伏」と呼ばれるようになりました。彼らは大自然そのものを仏と感じ、種々の行を修めています。

高尾山薬王院では、水行として蛇滝・琵琶滝での滝行が、火行として日々の護摩供が行われています。特に毎年三月に行われる「火渡り祭」が有名で、飯縄大権現の衆生救済の誓願に基づいて諸願成就が祈願されます。また、火生三昧と呼ばれる火渡りでは、修行者に続き一般の人も火を渡ります。



いにしえより高尾山は「祈りのお山」として信仰を集め、長年、多くの僧侶が修行を重ね、人々が参詣した霊場です。そのため高尾山薬王院の境内各所には、古くは江戸時代の「講碑」が多く残されています。このような碑は、高尾山薬王院を信仰する「講」と呼ばれる団体が、苗木などを奉納した際に建立しています。

現在でも巡礼の道場として、四国八十八か所の霊場の土を納めた「高尾山内八十八大師巡拝」や「仏舍利塔」、「百観音霊場御砂踏み」があります。

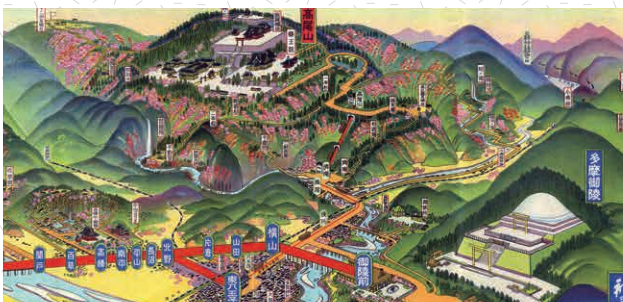
高尾山の歴史を語る 僧侶・山伏

観光地としての盛況

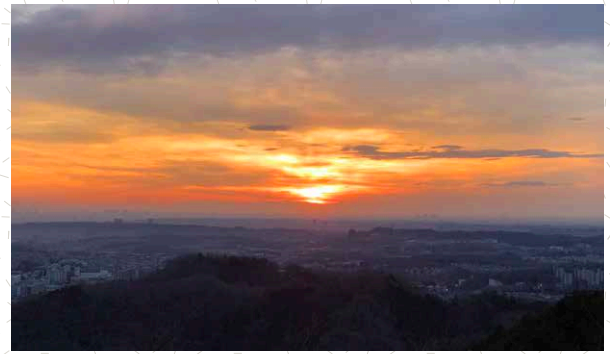
江戸時代になると、庶民の間で名勝巡りが流行し、高尾山に登る人々が増えていきました。幕末の横浜開港により、外国人が絹産業の視察などで八王子を訪れるようになると、遊歩限界地であった高尾山まで足を運ぶ外国人も現れるようになりました。

近代に入り、東日本で初めて八王子に陵墓が造営されると、全国から大勢の参拝客が訪れ交通が整備され、大正末期から昭和初期の全国的な観光ブームと相まって、高尾山と武蔵陵墓地周辺は観光名所として知られていきました。

レクリエーションの需要が高まると、高尾山周辺は『都立高尾自然公園(現都立高尾陣場自然公園)』及び『明治の森高尾国定公園』に指定され、森林の保護を図りながら都民が自然に親しめる場となりました。



京王電車沿線名所図絵



高尾山から朝日を望む

世界中から愛される山

高尾山は登山が気軽に楽しめる山として多くの人でにぎわうようになった一方で、これまで守られてきた豊かな自然に甚大な影響を及ぼすゴミ問題が深刻化しました。そこで昭和50年(1975年)ごろから、薬王院・鉄道会社・地域が三位一体となって“ゴミの持ち帰り運動”を実施しました。関係者の団結・連携した地道な努力により、ゴミを持ち帰るというマナーは年々浸透し、高尾山はゴミのない山として本来の美観と清浄さを取り戻しました。そして平成19年(2007年)、都心から1時間ほどの距離にありながら、これだけ豊かな自然が残されている点が評価され、高尾山はミシュランで最高ランクの三ツ星を獲得し、今では年間300万人もの登山者が訪れる山になりました。

高尾山の歴史を語る 杉

参道に植えられたスギ並木は、都内では希有な存在です。都指定天然記念物で、樹齢は約七百年といわれています。古くから時の権力者たちに保護されてきた山だからこそ、現在も見ることができのです。



高尾たこスギ (市指定天然記念物)

高尾山のスギ並木 (都指定天然記念物)





高尾山の豊かな自然

霊山として古くから人々によって大切に守られてきた高尾山。
そのため豊かな自然が残され、希少な生態系が魅力の一つとなっています。



動物



豊かな自然環境と植生を背景に、高尾山にはムササビやニホンリス、アカギツネ、ニホンアナグマなど、30種類近くの哺乳動物が暮らしています。なかでもムササビは高尾山を代表する動物として、訪れる人々にも愛される存在です。

ムササビ

本州・四国・九州の山地や丘陵地の林に生息し、樹上で生活しています。夜行性で、昼間は樹木にできた穴(樹洞)や家屋の屋根裏などを巣穴としていて、日没後30分ほどで巣穴から出て、木の葉や芽、種子などの食べ物を求めて活動を開始し、日の出前30分ほどになると巣穴に戻ります。移動の際に地面に降りることはなく、木から木へジャンプしたり、飛膜という膜状のひだをいっぱいに広げ、最大で樹木の高さの約3倍の距離を滑空します。高尾山では薬王院周辺などで見ることができ、観察会なども開催されています。

昆虫

高尾山ではこれまでに4,000種を超える昆虫が確認され、箕面山(大阪府)、貴船山(京都府)と並び日本三大昆虫生息地に数えられています。古くから昆虫研究者や愛好者に親しまれ、明治のころから日本人のみならず外国人も頻繁に訪れ、国内外に標本が残されています。高尾山で初めて発見された種も多く、タカオシャチホコやタカオメダカカミキリなど、「タカオ」の名を冠した昆虫も生息しています。

ムカシトンボ

名前のとおり、原始的な形質を残すとされる日本の固有種で、流量の安定した人為的改変の少ない溪流でしか見られません。高尾山は古くからムカシトンボの生息地として知られ、多くの人が観察・調査のため高尾山を訪れています。

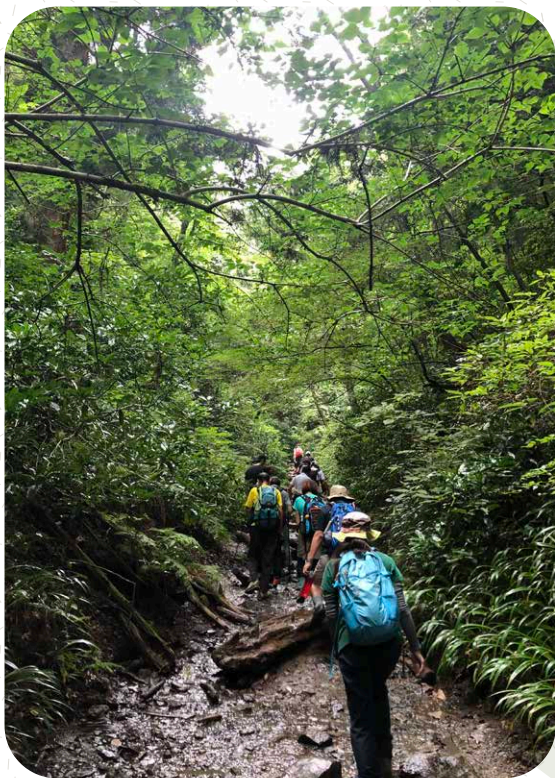


植物

高尾山には、都心から約40キロメートルという近距離にありながら、「天然林」ともいえる自然の林が残されており、ミシュランガイドでも三ツ星に評価されています。高尾山の登山道、1号路を挟んで北側斜面には落葉広葉樹林が、南側には常緑広葉樹林が見られ、2つの気候帯(冷温帯と暖温帯)の境目付近にあることも特徴の一つです。また、高尾山周辺には、イギリス全土に匹敵する1600種を超える植物が確認されています。

タカオヒゴタイ

高尾山で発見・命名された植物のうち、「タカオ」の名前を冠し高尾山を代表する植物といえばこのタカオヒゴタイが挙げられます。タカオヒゴタイは、明治42年(1909年)、植物学者の中井猛之進博士により発表されたキク科トウヒレン属の多年草です。草丈は50センチほどで、林縁に生え、茎の下部にはバイオリンのように中央がくびれた形をした葉を付けるのが特徴です。9～10月ごろには、茎の先に直径2センチほどのアザミに似た淡紅色の花を咲かせます。タカオヒゴタイは、高尾山のほか周辺の関東山地や多摩丘陵にかけても見ることができますが、分布は、東京・神奈川・山梨の1都2県に限られています。



自然研究路 (ハイキングコース)

大正期、東京市民の「日帰り観光地」として高尾山が注目されるようになると、その後到来した登山ブームも相まって、登山者が激増しました。さらに、昭和2年(1927年)に造営された多摩陵に全国から参拝者が訪れるようになると、その美しい自然景観が広く注目されるようになります。国や東京都は、豊かな自然環境の維持と活用のために国立公園や自然公園などの指定制度を設けます。高尾山とその周辺は「東京都立高尾自然公園」(昭和25年<1950年>)、「明治の森高尾国定公園」(昭和42年<1967年>)に指定され、森林レクリエーションの場としても発展してきました。また、国定公園指定を機に、高尾山の豊かな自然を観察することができるよう、難易度や景観、植生などの特徴別に、登山道が6つの自然研究路として整備され、高尾山の大きな魅力の一つになっています。

主な構成文化財

①高尾山



日本遺産

〔高尾町ほか〕

標高599メートルの山。東京都心から近く、年間を通じて多くの観光客や登山者が訪れます。古くから修験道の霊山とされ、信仰の対象として親しまれています。

②高尾山薬王院の建築物・仏像・古文書



1～4： 都府 建造物 5～6： 都府 彫刻 7： 都府 古文書 日本遺産

〔高尾町〕

1. 薬王院飯縄権現堂
2. 高尾山不動堂 附 須弥壇一基
3. 薬王院仁王門
4. 薬王院大師堂
5. 木造不動明王及び二童子立像
6. 木造地藏菩薩立像
7. 高尾山薬王院文書（郷土資料館に部分寄託）

高尾山薬王院は、行基菩薩によって天平16年（744年）に開山されたといわれ、その名は開山当時、薬師如来を本尊としたことに由来します。境内には、都の文化財に指定されている御堂や仏像などが残されています。また、薬王院の歴史を物語る古文書もあります。

③高尾山のスギ



1～2： 都記 3： 市記 日本遺産 〔高尾町〕

1. 高尾山のスギ並木
2. 高尾山の飯盛スギ
3. 高尾たこスギ
4. 天狗の腰掛けスギ
5. 江川スギ

高尾山には、樹齢700年といわれるスギの巨樹が存在しています。江川スギは、江戸時代末期に幕府の代官江川太郎左衛門が植えたものといわれています。

④殺生禁断の石碑



〔高尾町〕

高尾山には数多くの豊かな動植物が生息していますが、このような背景には、動植物をあやめたりすることを厳しく戒めて保護されてきた歴史があります。この石碑は、そのような高尾山の歴史を物語っています。

⑤火渡り祭



日本遺産

高尾山薬王院が野外で行う大規模な護摩法要で、「護摩木」という木製の札を焚いてその上を素足で渡り、除災開運を願う行事です。毎年3月に開催され、修験者が火渡りを行い、続いて一般の人も火を渡ることができます。

都府：都指定有形文化財
都記：都指定天然記念物

市記：市指定天然記念物

※⑧は位置が示せないため地図上にはありません



⑥水行道場



日本遺産

〔高尾町〕

山岳信仰に由来する滝への崇拝と結びついたのが「滝行」です。蛇滝と琵琶滝は、高尾山薬王院の水行道場として使われています。現在も、修験者による滝行が行われているほか、一般の方も修行することができます。

⑦おそうじ小僧



〔高尾町〕

昭和50年(1975年)ごろから始まったゴミ持ち帰り運動。その発祥の地のシンボルとして、平成5年(1993年)に山麓広場と山頂におそうじ小僧が建立されました。

⑧高尾山のムササビ



日本遺産

古くは千人同心組頭の植田孟縉が文政6年(1823年)に編さんした地誌『武蔵名勝図会』に、高尾山のムササビが描かれており、昔から親しまれてきた動物です。現在、高尾山では、日没後や日出前に薬王院周辺などでその姿を見ることができます。

⑨高尾駅舎(JR高尾駅北口)



〔高尾町〕

寺社建築風の駅舎で、「関東の駅百選」に選ばれています。この駅舎は、大正天皇御大喪に使用した「新宿御苑仮停車場」を移設したものです。移設当時は浅川駅でしたが、昭和36年(1961年)に高尾駅に改称、高尾山への玄関口として、年間を通して観光客でにぎわっています。

⑩高尾山口駅舎



〔高尾町〕

平成27年(2015年)に竣工した京王電鉄高尾山口駅の新しい駅舎です。新国立競技場と同じ、建築家隈研吾氏の設計によるものです。駅舎には観光案内所「むささびハウス」が設けられ、外国からの来訪者向けに多言語でのサービスも行っています。

⑪高尾山ケーブルカー(高尾登山電鉄)



〔高尾町〕

増加する訪問者の利便を図るために計画され、大正9年(1920年)、薬王院の関係者や地元浅川村の有力者らが発起人となり、敷設免許が申請されました。昭和2年(1927年)に開業したケーブルカーの最急勾配は31度18分、ケーブルカーの線路では「日本一の急勾配」となっています。

文化財の保存・活用事例

森林パトロール隊による森林保全

高尾山には、豊かな自然を守る活動を行っている団体がいくつかあります。中でも古くから継続して活動を行っているのが、昭和42年(1967年)に結成された八王子森林パトロール隊です。この団体の特徴は、子どもたちが清掃活動をしながら自然を守り、ゴミの持ち帰り運動を展開してきたことです。こうした活動は、平成19年(2007年)に高尾山が「ミシュランガイド」の三ツ星を獲得したことや今日の高尾山人気に大いに貢献してきたといえるでしょう。

現在も、子どもたちが高尾山の自然や歴史に親しみながら、それらを大切にする気持ちや仲間との友情、そして八王子への郷土愛を育む活動を継続しています。



自然体験を通じた魅力の発信

高尾山の山頂には、インタープリター(自然解説員)が常駐する「高尾ビジターセンター」があり、展示や自然体験ツアーを楽しむことができます。麓には、自然体験だけでなく森林や林業について学ぶことができる「高尾森林ふれあい推進センター」や、国内有数の生物多様性を誇る高尾山の動植物を、見て、触れて、学べる「高尾599ミュージアム」があります。訪れる人々に、高尾山の豊かな自然環境や歴史文化の魅力を伝えています。



高尾森林ふれあい推進センター



高尾599ミュージアム